

同志社創立百二十五周年記念事業を終えて(感謝とご報告)

学校法人同志社 理事長 野本真也



学校法人同志社は昨年、創立百二十五周年を迎えるにあたり、キリスト教に基づき自由と愛の精神を培い、良心を研ぎ澄ますことが、日本の近代化と国家社会への貢献のために何より大切であるとした新島襄の志と熱烈な祈りを思い起こし、あらためて今、その志を同じくする人々がひとつに結集し確認し合うことで、その輪がさらに広がっていくことを念願して、記念事業を計画いたしました。事業の中でさまざまな計画を進めてまいりましたが、主なものについて簡単に報告いたします。

まず「同志社びわこリトリートセンター」をキリスト教主義および国際主義の教育を推進するための施設として建設しました。ここは、伝統的な雰囲気のある型の今出川キャンパス、モダンな明るい雰囲気の郊外型の京田辺キャンパスに次

ぐ第三のリゾート型のキャンパスで、新島が目指したような寮と教室を密接に関連づけた場での教育の可能性を求め、教師と学生・生徒とが生活を共にすることで、人格的な交流を密にする機会を提供することのできる施設の充実をと願ったものです。

つぎに、知的退廃とモラル荒廃がいたるところに見出される現在の混迷の時代にあつて、新島の志を生かすとするれば、具体的にどのような方向性を持ち得るのかを多くの方々とともに確かめ合うことができればと願い、東京と京都で記念シンポジウムを企画しました。パネリストの方々の活動と経験から語られる知恵と確信に満ちた数々のご提言によつて、世代を超え、国境を超え、文化の違いを超えて、共に生きる志を共有していくことが、どんなに大切かを、あらためて教えられ、

確認させていただくことができました。また、小学校設立の可能性を協議する過程で、総合学園としての同志社のあり方、各学校のあり方、日本の教育の問題点や解決方法などを検討する機会を持つことができました。

これら数々の記念事業には、じつに多くの方々がこころをひとつにして積極的に関わり、ご奉仕くださいました。教職員・卒業生・在校生の方々には、ホームカミングデー&ウィーク、各地での講演会などの諸行事を実施するにあたり、多大のご協力をいただきました。心から厚く御礼申しあげますとともに、記念事業の中で得たさまざまな収穫を糧に、二十一世紀の新たな歩みを同じ志を抱く皆さまと共に進めてまいりたいと存じます。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

記念事業報告

学校法人同志社
創立百二十五周年記念事業委員会

I・同志社創立百二十五周年記念行事

一九九九年一月から二〇〇〇年一月までの間を記念行事期間として、様々な記念行事を実施した。

1. 記念式等

(1) 同志社創立百二十五周年記念式

(主催 学校法人同志社)

二〇〇〇年一月二十九日

会場 同志社礼拝堂

参加者 約四百十人

午餐会 午後から会場を同志社びわこリトリートセンターに移して行われた。参加者約三百人。

二〇〇〇年一月二十六日

(2) 記念礼拝 (主催 学校法人同志社、同志社教会)

二〇〇〇年一月二十六日

会場 同志社栄光館

説教 「今なお語る 新島襄」

日本基督教団枚方くずは教会牧師

石田 正弘氏

参加者 約二百人

(3) リユニオン (主催 学校法人同志社、同志社校友会、同志社同窓会)

二〇〇〇年一月二十六日

会場 同志社新島会館

参加者 約百五十人

(4) 早天祈禱会

二〇〇〇年一月二十九日

会場 若王子山頂

奨励 松山 義則 同志社総長

参加者 約三百人

2. 記念シンポジウム—東京—

二〇〇〇年一月一日

会場 東京国際フォーラム

テーマ 「共生への志—心のいやし、魂の

鎮めの時代に向けて—」

パネリスト

ロナルド ドーア氏

(ロンドン大学名誉教授・日本研究者)

ブラティープ ウンソクタム 泰氏

(タイ上院議員・社会福祉運動家)

大江 健三郎氏

(一九九四年ノーベル文学賞受賞者・作家)

コーディネーター

深田 未来生氏 (大学神学部教授)

コメンテーター

井上 勝也氏 (大学文学部教授)

沖田 行司氏 (大学文学部教授)

参加申込者 約三千三百人 (葉書によるもの)、千三百人に参加券発送、参加者約

千人

このシンポジウムの模様は明徳館一番教室で同時中継されたほか、インターネットを通して世界に向けて発信された。アクセス数は日本語千四百七十九件、英

語四百九十四件、計千九百七十三件。さらに岩波書店より『岩波ブックレット』シリーズの一冊として出版。

3. 記念シンポジウム―京都―

二〇〇〇年一月二五日

会場 国立京都国際会館

テーマ 「新世紀への出発^{たひだち}」

―文化が創る心の時代―

パネリスト

キャスリン C・ソーントン氏

(元NASA宇宙飛行士・ヴァージニア大学工学

応用科学部教授・学部長)

松井 孝典氏

(東京大学大学院新領域創成科学研究科教授)

三枝 成彰氏 (作曲家)

飯野 賢治氏 (スパーワープ代表取締役

コーディネーター

磯村 尚徳氏 (バリ日本文化会館館長 外交評論家

参加申込者 約千六百人 (葉書によるもの、参加者約千二百人)

このシンポジウムの模様はインターネ

ットを通して世界に向けて発信された。

アクセス数は日本語八百四十六件、英語

百二十六件、計九百七十二件。

4. 記念講演―地方―

(1)福岡

一九九九年一月一二日

会場 ホテルオークラ福岡

講演 「ニュースを疑え！」

講師 小川 和久氏

参加者 約四百人 (国際政治・軍事アナリスト)

(2)愛媛

一九九九年一月四日

会場 南海放送本町会館キャッスルホール

講演1 「愛媛県と同志社」

講師 河野 仁昭氏 (元同志社史料資料室長)

講演2 「楢円球の詩」

講師 林 敏之氏

(神鋼ヒューマン・クリエイト)

参加者 約二百人

(3)岡山

二〇〇〇年一月二二日

会場 ホテルニューオカヤマ

講演1 「新島襄の女子教育観」

講師 坂本 清音氏 (女子大学教授)

講演2 「今、お金をどう使うか―混乱する金融情勢下で―」

講師 小邦 宏治氏 (経済ジャーナリスト)

参加者 約百五十人

(4)大磯

二〇〇〇年一月二三日

会場 大磯社会福祉センター

講演 「新島襄の『白鳥のうた』―大磯の二十八日―」

講師 本井 康博氏 (同志社大学講師)

参加者 約百五十人

(5)仙台

二〇〇〇年六月一〇日

会場 法華クラブ仙台ハーモニーホール

講演1 「同志社の仙台進出をめぐって―押川方義と新島襄―」

講師 本井 康博氏 (同志社大学講師)

講演2 「笑いの経済学」

講師 木村 政雄氏 (吉本興業常務取締役)

参加者 約二百人

(6)新潟

二〇〇〇年六月二三日

講演1 「新島襄の女子教育観」

講師 坂本 清音氏 (女子大学教授)

講演2 「笑いの経済学」

講師 木村 政雄氏 (吉本興業常務取締役)

参加者 約二百人

二〇〇〇年六月二三日

会場 新潟市民プラザホール

講演1 「わが心は新潟県のために燃ゆ」

講師 同志社校長・新島襄の祈り」

講師 本井 康博氏（同志社大学講師）

講演2 「宇宙から見た地球の未来」

講師 中村 浩美氏

参加者 約二百人
（航空評論家・科学ジャーナリスト）

(7)金沢

二〇〇〇年七月八日

会場 金沢全日空ホテル

講演1 「志士から学士へー立身出世と明治の青年ー」

講師 伊藤 彌彦氏（大学法学部教授）

講演2 「勇気のなかに」

講師 大八木淳史氏（日本ラグビーフットボール協会普及育成委員）

参加者 約二百人

(8)札幌

二〇〇〇年九月二二日

会場 札幌後楽園ホテル

講演1 「新島襄と北海道ー函館のニコライ宣教師と札幌農学校のW・

S・クラーク博士のことなどー」

講師 井上 勝也氏（大学文学部教授）

講演2 「二十一世紀を前にしてー日本再生の課題ー」

講師 山田 厚史氏（朝日新聞アジア総局員）

参加者 約二百人

(9)神戸

二〇〇〇年一〇月七日

会場 神戸朝日ホール

講演1 「新島襄の青春と異文化体験ー百二十五年度のメッセージー」

講師 沖田 行司氏（大学文学部教授）

講演2 「日本の平和と繁栄の条件」

講師 小川 和久氏

参加者 約三百人
（国際政治・軍事アナリスト）

(10)名古屋

二〇〇〇年一〇月一四日

会場 名古屋観光ホテル

講演1 「新島襄の『私立』する精神ー混乱の時代に同志社は一隅を照らす光となるかー」

講師 沖田 行司氏（大学文学部教授）

講演2 「茶の心と同志社」

講師 千 宗室氏（茶道裏千家家元）

参加者 約八百五十人

(11)福岡

二〇〇〇年一〇月二七日

会場 ホテルオークラ福岡

講演 「考古学と古代九州ー邪馬台国論争にもふれながらー」

講師 森 浩一氏（同志社大学名誉教授）

参加者 約四百五十人

(12)大阪

二〇〇〇年一一月一五日

会場 南海サウスタワーホテル大阪

講師 コラソン コファンコ アキノ氏
（元フィリピン共和国大統領）

フィリピンの国内情勢により、講師が

出国できなくなったため中止。

5. 全同志社合唱祭

二〇〇〇年一一月一八日

会場 京都コンサートホール・大ホール

参加合唱団

①同志社混声合唱団

②同志社D・M・C.

③同志社学生聖歌隊

④同志社教職員合唱団・アンサンブル
クローバー

⑤同志社グリーンクラブ

⑥クローバークラブ

⑦同志社リーダー・クラウンツ

⑧同志社リーダー・クラウンツ・コールOB合
唱団

⑨同志社混声合唱団こまぐさ

⑩同志社女子中学校・高等学校聖歌隊

⑪フレンドリー・コーラスクラブ

⑫同志社中学校・高等学校ホザナコー
ラス部

⑬同志社女子大学音楽科合唱団

⑭同志社学生混声合唱団(C.C.C.D.)

⑮同志社混声ヘシヤンテ(C.C.C.D.
OB・OG合唱団)

参加者 約千八百人

6. 展示会

(1)「新島襄のスケッチと書」展

二〇〇〇年一〇月二日～八日

会場 丸善京都河原町店 七階ギャラ
リー

講演会 二〇〇〇年一〇月七日

「志の人・新島襄」

本井 康博氏(同志社大学講師)

参加者 約七百六十人(講演会六十人)

(2)「同志社百二十五年のあゆみ」展

二〇〇〇年一〇月一六日～一二月一八日

会場 大学ハリス理化学館
Neesima Roomほか

(3)「同志社各学校のあゆみ」展

「大学工学部記念展示」

二〇〇〇年一〇月一日～三日
会場 大学ハリス理化学館

7. 創立百二十五周年の冠をつけた記念
行事

(1)同志社写真の会展「同志社からの風」

二〇〇〇年七月二日～二五日

会場 京都・祇園 ぎやらりい西利
二〇〇〇年一〇月一日～三日

会場 大学明德館一階ギャラリー

(2)同志社・今治モダンシティフェスティバル
二〇〇〇年十一月三日～五日

会場 今治市中央公民館、今治湯ノ浦

温泉「ホテルアジュール」、今治

市総合福祉センター

(3)関西学生アイスホッケーリーグ戦

立命館大学VS同志社大学

二〇〇〇年一〇月三日

会場 滋賀県立アイスアリーナ

(4)同志社東京・エグゼグティブの集い

同志社校友会東京支部

二〇〇〇年一〇月一三日
会場 同志社大学東京アカデミー

(5)教育学専攻創設五十周年記念特別講演

二〇〇〇年一〇月一七日

会場 大学神学館礼拝堂

講演 「大学の危機と教育学の役割」

講師 寺崎 昌男氏(日本教育学会会長)

(6)同志社交響楽団 第七十二回定期演奏会

二〇〇〇年一〇月二二日

会場 大阪ザ・シンフォニーホール

(7)同志社混声合唱団

京都・広島ジョイントコンサート

二〇〇〇年一月二十五日

会場 広島県民文化センター

8・同志社ホームカミングデー

& ウィーク

ホームカミングウィーク

二〇〇〇年一月一日〜三日

ホームカミングデー

二〇〇〇年一月三日

会場 今出川キャンパスを中心に実施

一日と二日は各種展示、写真展に加え
てキャンパスツアーを行ったが、天候に
恵まれず、参加者は約百八十人であつた。

三日は、ホームカミングデーとして今

出川キャンパスを主会場に、十時からの
開会式に始まり、十六時の閉会まで左記
のような様々な催しにより卒業生歓迎の
日とした。参加者は、卒業生とその家族
約三千八百人。

(1)記念講演

会場 大学明德館二十一番教室

講演 「日本の活力を培う」笑いの文

化」

講師 木村 政雄氏（吉本興業常務取締役）

(2)講演 1

会場 大学明德館一番教室

講演 「日本から見たベトナムー水か
らくりの世界ー」

講師 山田 和人氏（大学文学部教授）

(3)講演 2

会場 大学至誠館二番教室

講演 「新島先生には会計学者の素質
があつた？ー同志社の教育理念
と情報公開ー」

講師 百合野正博氏（大学商学部教授）

(4)講演 3

会場 大学至誠館三番教室

講演 「日本語教育の過去・現在・未来」
講師 河野 俊之氏（女子大学助教授）

(5)集会・クラス会

今出川校地の各教室、研究室、明德館
前、アームストロング庭園、女子大学図書館
屋上庭園に設けられたオープンテラスで

ゼミやサークルの集会が数多く開かれ
た。

(6)その他の催し

学校紹介・入試相談、ビデオ上映、大
学軽音楽部演奏、グリーククラブOB合唱、
ストリートパフォーマー、大学応援団演
舞・吹奏、人力俵（散策）など。

9・記念卒業式

二〇〇〇年一月三日

会場 同志社栄光館

参加者 約二千二百人

学園紛争で卒業式が実施できなかった
一九七〇年、一九七二年、一九七五年の
大学卒業生が対象。

記念卒業式は午前と午後の二回に分け
て実施され、同志社大学でこれまで行わ
れてきた「式次第」によって厳粛に進め
られた。一九七〇年、一九七二年卒業生
に山本浩三同志社大学名誉教授・元大学
長から、一九七五年卒業生に松山義則総
長・元大学長から、それぞれ卒業証書授
与と祝辞があり、八田英二大学長から式
辞が述べられた。

10・新聞広告（五十七頁に掲載）

二〇〇〇年一〇月九日掲載。ヴァーモント州ラットランドのグレイス教会で開かれた、アメリカン・ボードの第六十五回年次大会において、新島襄が日本にキリスト教の学校を設立したいという感動的なアピールを行った日（一八七四年一〇月九日）を記念して設定。

掲載紙は、朝日、読売、毎日、京都新聞（全十五段のカラー）。協賛企業として全国紙は二十三社（一社百万円）、京都新聞は七社（一社三十万円）に協力を依頼。電子メール、電話、新聞社への投稿等で広告内容についての反響があった。概ね、同志社が「志の高い教育機関」であるという好印象を受けたとのレスポンスが大多数であった。

II・同志社小学校（仮称）設立構想の検討

新島襄は「キリスト主義の学校は、幼稚園より大学にいたるまでじつに必要なものと信ずれども、当時、我が輩の力なを微々たり、よくこれに着手得ざるべし」

と述べている。この新島の夢を現実のものとするために、また、小学校設立の可能性を検討する中で、総合学園同志社の各学校のあり方、さらには日本の教育の問題点やその解決方法などを検討することは、同志社の将来のために有意義であろうということ。同志社小学校（仮称）設立構想委員会を設置し、できれば二十一世紀初頭に実現すべく具体的に検討することを記念事業のひとつとした。

その結果、同志社教育の特色を生かすためにも、小学校を設立し、独自の教育プログラムを開発し、個性豊かな国際性を備えた人材を育成することが望ましいという「中間答申」（二〇〇〇年三月一三日）がなされた。しかし、理念、一貫教育などの問題をさらに検討する必要があるため、創立百二十五周年記念事業を引き継ぐかたちで、この委員会を継続して設置し、小学校設立の可能性をより具体的に検討することになった。

III・同志社教育を一層充実するため の施設等の整備

1・同志社びわこリトリートセンター

キリスト教主義教育及び国際主義教育を推進するための施設を、琵琶湖畔の北小松校地に建設した。これは、今出川キャンパス、京田辺キャンパスに加え同志社の第三のキャンパスとして整備された。建設資金は、ハワイのキリスト者から捧げられた寄付をもとに購入した「同志社唐崎ハワイハウス」の売却代金、並びに創立百十一周年を記念して「国際交流センター」建設のために捧げられた寄付金などあわせて約三十億円。

約十万六千㎡の敷地内の施設概要は、北小松校地整備企画委員会が検討された結果、多目的仕様の礼拝堂をはじめ総定員二百四十六人の和室・洋室・キャビンの計四十九室、国際会議も可能な会議室を含むセミナー室七室、大小食堂や三つの浴室など建物の延床面積は約五千㎡。屋外施設として、テントサイトを含むキャンプエリア、テニスコート、グラウンド、屋外グリーンチャペル、駐車場、ピ

オートブなど自然に親しむ自然観察路などが設けられている。

一九九九年七月三日起工式、二〇〇〇年八月三十一日竣工し、九月二十九日献堂式を挙行、十一月一日にオープンした。施設の運営については、運営委員会及びその下に企画実行委員会が設置され、今後様々なプログラムの展開が計画されている。

2. 同志社女子大学「友和館」(コミュニティセンター) 竣工

学生及び卒業生のための施設として二〇〇〇年八月八日竣工、九月一日献堂式を挙行。RC造、地上四階・地下一階、建物延床面積五五二・〇一㎡。在学生及び卒業生用ラウンジなど計三十二室。

3. 同志社香里中学校・高等学校「友愛館」(新校舎) 竣工

普通教室、特別教室、多目的教室、プールなどを設置。一九九九年二月二日竣工、三月二三日献堂式を挙行。RC造、地上五階、建物延床面積四〇四九・四㎡。

4. 京田辺校地通学路周辺の環境整備

東西道路南北の校地を造成し、キャンパスの玄関にふさわしくするための基盤整備。東西道路に平行して北側にある校地を通学路の高さまで造成するとともに、緑地帯を設けプラザ的なスペースとして整備し、駐輪場も拡大して整備。また、東西道路と市道に面するフラットな校地は、盛り土と植樹及びモニユメントを建てるなどにより整備。なお、このモニユメントは、日本サインデザイン協会のSDA賞を受賞。

IV. 歴史的建造物の修復・活用

1. クラーク記念館の修復

重要文化財であるクラーク記念館の改修については、文化庁文化財保護部及び京都府文化財保護課と打ち合わせの結果、全面改修は三年先に予定されている補助金事業に委ねることとし、当面、飾り石の剝落や雨漏りを防止するための応急修理を実施。二〇〇一年九月までに終了する予定。

2. ジェームズ館の保存改修工事

女子大学の記念事業として施工中。二〇〇一年八月に今出川キャンパスのコミュニティセンターとして完成する予定。

V. 社史資料の整理、『同志社百年史』以降の年表編集など

1. 同志社資料の整理

(1) 図書資料 未整理図書約七千冊の本学目録検索システム(DOORS)へのデータ入力を一九九八年一〇月から開始、二〇〇〇年度末に完了の予定。

(2) 一次資料 約一万四千点の調査点検を行い、二〇〇〇年度末に『文書目録』を刊行の予定。

2. 新島遺品庫資料のデジタル化、貴重資料の保存と公開

一九九八年度から約五千九百点三万三千コマを対象、二〇〇〇年度未完了の予定。「資料公開システム」二〇〇一年度からインターネットで資料を公開するため、研究者用利用システム、展示資料の

公開システムを構築する予定。

3. 『現代語で読む新島襄』

〔『現代語で読む新島襄』編集委員会編〕

新島襄の書簡、日記、趣意書などから七十七点を現代語訳。二〇〇〇年一月二十九日刊行。A五判三百十二ページ。

〔編集委員 井上勝也（大学文学部教授）伊藤彌彦（大学法学部教授） 本井康博（大学文学部嘱託講師） 沖田行司（大学文学部教授） 坂本清音（女子大学学芸学部特任教授）〕

4. 『同志社百年史』以降の同志社年表の刊行

二〇〇一年三月までの採録・データ入力を二〇〇〇年度末までに完了。二〇〇一年度に『同志社百二十五年史年表』（仮称）を刊行する予定。

VI. 同志社女子大学の創立百二十五年周年記念事業

(1) 『現代社会学部社会システム学科』（修業年限四年・収容定員千六百四十人）を

設置。二〇〇〇年四月開設。

(2) 京田辺校地に通学路エスカレーター（正門から友和館をつなぐ）完成（一九九九年四月）。『友和館』（コミュニケーションセンター）竣工（二〇〇〇年八月）。

(3) 今出川校地の「ジェームズ館」保存改修。二〇〇一年八月完成予定。

(4) 一九九九年一月二〇日に今出川キャンパスで、第一回ホームカミングデーを開催。卒業生約千二百人が参加。記念礼拝、記念式典、記念講演、懇親パーティーを実施。

二〇〇一年一月四日に京田辺キャンパスで第二回ホームカミングデーを開催。『同志社女子大学歌』（作詞 江森国友氏・作曲 原嘉壽子氏）の発表披露を行う予定。

(5) 一九九九年一〇月九日、IMPホール（大阪）における、中坊公平氏（弁護士）などの「公開文化講演会」をはじめとして、「短期大学部講演会」「音楽学科管弦楽団演奏会」「シェイクスピア・プロダクション公演」「短期大学部ミュージカル公演」などを各年度に開催。

(6) 『同志社女子大学百二十五年』A四判

二百八十ページ、二〇〇〇年一二月刊行。

(7) 「募金活動」ジェームズ館保存改修とコミュニケーションセンター（友和館）建設費の一部に充てるため、募金中（募金目標額五億円）。二〇〇〇年一二月末現在、寄付申込額一億九千八百八十七万二千円、件数二千二百五十三件。

VII. 同志社香里中学校・高等学校の創立百二十五周年記念事業

(1) 一九九九年四月から中学校の学級増（五クラスから六クラスとし、クラス定員を四十人とする）を実施。

(2) 二〇〇〇年四月には、高等学校に「国際コース」二学級を新設。その二分の一を女子生徒として、男女共学を実施。

(3) 二〇〇二年四月から、中学生新入生を男女共学とし、その三分の一にあたる八十人の女子生徒を受け入れる予定。

(4) 建物の新設及び改修

① 特別教室の空調設備、尚志館・新明誠館の特別教室などの改修工事。一九九七年八月完成。

② 有朋館（生徒食堂）拡張工事。一九九

七年八月完成。

③新校舎「友愛館」建設及び明誠館改修工事。一九九九年三月完成。

④通学路アプローチ部分(絆の塔を含む)の整備改修工事(第Ⅱ期工事の一部前倒し)。一九九九年八月完成。

⑤第Ⅱ期工事 通学路アプローチ部分、第二体育館、第一グラウンドの整備及び新校舎建設。二〇〇一年度完成予定。

(5)二〇〇一年一月一日に記念式・記念講演をIMPホールで、祝賀会をホテルニューオータニ大阪で開催する予定。

講演会・演奏会・展覧会・競技会・バザーなども実施する予定。

(6)『同志社香里創立五十周年記念誌』を現在編纂中。二〇〇一年九月刊行の予定。

(7)「募金活動」①から⑤の事業費に充てるため、募金中(募金目標額八億円)。二

〇〇〇年十二月末現在、寄付申込額二億二千八百四十五万五千八百一円、件数千六百四十一件。

VIII・同志社幼稚園の創立百二十五周年記念事業

(1)幼稚園舎の増築工事が二〇〇〇年三月に完成。一階一室。RC造七十二㎡。

(2)幼稚園の「園歌」制定。作詞、作曲とも公募。二〇〇〇年一月二十六日に選定。

作詞 岸本兵一氏(同志社大学大学院神学研究科修了)、作曲 深田琴氏(同志社大学法学部卒)の作品に決定(八十三頁に掲載)。

(3)幼稚園記念式典

二〇〇〇年一月二十六日、同志社栄光館。百三十人の園児と卒園生、父母、来賓を含め約三百人の参加者。第一部では記念式、第二部では「園歌」の候補作品三曲の母の会による発表。「園歌」の優秀賞及び佳作の決定と授賞。

IX・同志社創立百二十五周年記念に 対する特別寄付

学校法人同志社としての募金事業は実施しなかったが、全国各地の卒業生から百二十五周年を記念して五件、二百五十

八万五千円の寄付の申し出があり、これを特別寄付として受け入れさせていた。

また、同志社びわこリトリートセンターに設置されるパイプオルガン購入資金の一部として、全同志社合唱祭の実行委員会から百八万五千円のご寄付をいただいた。